

第34回全国高等学校ハンドボール選抜大会

出場 男子 岩手県立不来方高等学校
岩手県立盛岡第一高等学校
岩手県立盛岡南高等学校

【男子大会展望】

男子は、第一シードに北陸高校（北信越ブロック1位）、第二シードに興南高校（九州ブロック1位）、第三シードに県立不来方高校（東北ブロック1位）、第四シードに県立下松工業高校（中国ブロック1位）が入った。どのチームも実力校であり、昨年の実績から見ると北陸高校と興南高校が優勝候補である。激戦九州ブロックを2位通過した県立小林秀峰高校や最多チーム数の東海ブロックを勝ち抜いた愛知高校も優勝候補である。シード校に続く上位有力校は、県立藤代紫水高校、桃山学院高校、県立香川中央高校の各ブロック予選優勝チームである。新チームにおけるチャレンジマッチでは、特に藤代紫水高校と県立香川中央高校の評判が高い。今年は昨年に比べ注目選手が少なく、チームワークやチーム戦術が重要になってくる。どのチームも絶対的な強さがないため、大会に入ってから調子を上げるチームにチャンスがあると考えられる。第一シードと第四シードに上位有力校がひしめき合っており、大会序盤から優勝を狙う好カードがあり、楽しみである。

【不来方高校】

男子不来方高校は11年連続17回目の出場となる。過去には第27回大会と第32回大会、そして昨年地元の第33回大会で第3位を収めている。東北予選では、2年連続12回目の優勝を果たし東北第一代表として出場する。初戦は26日15:30～花巻市総合体育館で、岩国工業高校と福岡魁誠高校との勝者と対戦する。続く3回戦は27日13:00～花巻市総合体育館で、高松工芸高校と富岡高校との勝者と対戦する。各ブロック予選の結果から考えると不来方優勢である。近年になく、序盤に強豪と対戦しない好組合せになっており、調子を上げながら上位進出していきたい。準々決勝は28日14:30～花巻市総合体育館で、北信越2位の高岡向陵高校との対戦が予想される。今年は例年になく練習マッチでの評判が高いため、しっかりと対策を立て準決勝に駒を進めたい。準決勝はインターハイも合わせて過去6回敗退しており、今年こそその気持ちで臨みたい。第二シードの興南高校との対戦が予想されるが、来年度の北東北インターハイにも繋がるゲームを目指している。

【盛岡第一高校】

男子盛岡第一高校は2年連続6回目の出場となる。東北予選では2位トーナメントから無敗で勝ち上がり、東北第四代表として出場する。初戦は25日11:30～花巻市総合体育館で、宮崎県代表の小林秀峰高校と対戦する。優勝候補との対戦であるが、昨年の全国選抜を経験したメンバーが多く残っており、初日のゲームとして思い切ったプレーを期待したい。

【盛岡南高校】

男子盛岡南高校は5年振り3回目の出場となる。岩手県予選で第3位を収めており、不来方高校と盛岡第一高校が東北予選で出場権を獲得したため、嬉しい開催地代表として出場する。初戦は26日9:30～富士大学スポーツセンターで、大阪府代表の大阪体育大学浪商高校と対戦する。私立強豪校であるが、開催地代表としてさわやかに挑戦して欲しい。

第34回全国高等学校ハンドボール選抜大会

出場 女子 不来方高等学校
盛岡第二高等学校

【女子展望】

女子は第一シードに四天王寺高校(近畿ブロック1位)、第二シードに府立洛北高校(近畿ブロック2位)、第三シードに高岡向陵高校(北信越ブロック1位)、第四シードに埼玉栄高校(関東ブロック1位)が入った。これらシード校に加え、年末年始のプライベート大会で実力の高さを示した華陵高校(山口県)、東海ブロックで優勝した愛知商業(愛知県)らの戦い方に注目が集まっている。昨年度のこの大会では大阪第2代表で出場した四天王寺高校が優勝するなど、選抜大会ならではのドラマが展開されており、今年もこれら実力高以外のチームからヒロインが出る可能性は十分に考えられる。岩手勢が地元の利をいかして、どこまで波に乗れるかも見所の一つであろう。

【不来方高等学校】

女子不来方高校は4年連続8回目の出場となる。地元開催の初年度となった昨年度は、初戦で涙を飲んだが32回大会ではベスト8入りを果たしている。今回は東北第二代表としての出場となり、上位進出が期待できる。例年に比ベスケールは小さめではあるが、キャプテン佐藤明日香のゲームメイクが浸透しつつあり、これにスピードハンドボールを展開したい。定石通りの「守って速攻」の基本をどこまで高められるかが課題であろう。守備の支柱であるゴールキーパー阿部奏恵のキーピングにも注目したい。初戦の夙川学院高校(兵庫)に勝利し、一気に波に乗りたいところである。

【盛岡第二高等学校】

女子盛岡第二高校は2年ぶり15回目の出場となる。不来方高校が東北選抜大会で出場権を獲得したため、開催地代表としての嬉しい出場となる。初戦は山口県第二代表の高水高校と対戦する。久しぶりの全国大会となるが伝統校の強みを武器に粘り強い戦いに注目したい。エース谷藤詩音のロングシュートを軸に幅広い攻撃を展開し、伝統校復活を印象づけたい。